

乳児期からのステロイド使用後に遠隔治療を続けた青年期アトピーの経過 (16 歳女性)

症例 ID：001-16-KA | 記録日：2015 年 11 月 5 日

1. 診断・治療前経過

生後 1 か月から強い皮膚症状があり、1 歳頃から小児科で処方されたステロイド軟膏を使用しました。症状は良くなり悪くなったりを繰り返し、薬の強さと使用量が増えていきました。

自己判断で中止した後も症状は続き、幼稚園入園頃に血や浸出液が出るほど悪化しました。数か月ぶりに 1 日だけステロイドを塗ると一時的に目立たなくなりましたが、翌日には元の状態へ戻りました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	1 歳頃から外用ステロイドを使用し、次第に強い製剤と多い量へ移行しました。
製品名	不明です。
強度	次第に強い製剤へ変更されました。
使用期間	1 歳頃から 3 歳頃までです。
中止時期	自己判断で中止し、その後松本医院を受診しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 1 か月	来院前	強い皮膚症状が始めました。
1 歳頃	ステロイド開始	小児科で外用ステロイドを開始し、良化と悪化を繰り返しました。
幼稚園入園頃	来院前ピーク	血や浸出液が出る状態となり、1 日だけステロイドを再使用しました。
3 歳頃	治療開始	東京から大阪を受診し、その後は遠隔で治療を継続しました。
開始後 1 週間	初期変化	皮膚が剥がれ、新しい皮膚が現れる変化がみられました。
開始後約 3 か月	回復傾向	強かった症状はほぼ目立たなくなりました。
16 歳時点	経過中	環境変化で一時的に症状が出ることはあり、首に症状が残ることがありました。

4. ピーク時期

ピークは、幼稚園入園頃に血や浸出液が出て、皮膚が強く崩れていた時期です。

5. 困りごと

- 血や浸出液が出る状態が続き、保護者の処置負担が大きくなりました。
- 遠方からの受診後は、症状の変化を確認しながら遠隔で治療を続ける必要がありました。
- 青年期にも首に症状が出ることもあり、継続して経過をみる必要がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



治療開始前後の首周囲の皮膚状態の記録。



経過中の首周囲の皮膚状態の記録。

7. 経過のまとめ

3歳頃の治療開始後、1週間で皮膚の剥がれ方に変化がみられ、約3か月で強かった皮膚症状はほぼ目立たなくなりました。その後も環境変化に伴う一時的な症状や首の症状はありましたが、16歳まで遠隔治療を続けながら日常生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。